

ラーニングテクノロジー開発室

ニュースレター

WebCT活用授業レポート

WebCTを通じて授業の資料を配布している活用例



今回は、理工学部の久保田弘敏先生にお話をうかがいます。

LT どのようにお使いになっているのでしょうか。

久保田先生 今期は「宇宙工学概論」をはじめ学部で4つ、後期では学部の4つと大学院の1つも含めてすべての科目で利用しています。まず、授業の日程表として、各回の内容を記したものを載せています。シラバスですね。それから、授業の資料として1回あたり10ページほどのプリントを載せています。パワーポイントを使うときはそれも授業前に載せて、事前に見るように言っています。ワードだと読めないという学生がいたので、PDFに変換して両方を載せています。早ければ2、3週間前ですが、遅い時は申し訳ないのですが前日だったりします。

LT 学生の反応はいかがでしょう。

久保田先生 まちまちですね。WebCTに載せてある資料は、印刷して講義のときに持ってくるのがよいのですが、忘れたという学生もいればあまり熱心でない学生もいるので、印刷してきていない学生もいます。何も持たずに聞いている学生を見ると少し心配になりますが、試験の時には全員が印刷して持ってきているので、最終的には全員に行き渡っているということですね。熱心に学ぶ学生にとっては、いつでも見られることがいいですよ。配布するのでは、その時まで見られませんか。また、資料をもらった安心してしまっていて内容をよく見ないこともあったようです。自分から取りに行った資料は、よく見ているように感じます。

WebCTで配布するようにしてから、授業前の配布準備が要らなくなりました。また、なくしたとかで

試験直前になって取りに来る学生のためのプリントの保管や個別対応から解放されました。

LT その試験もWebCTに掲載なさっているとか。

久保田先生 ええ、中間試験・期末試験の問題と解答を載せています。もちろん、こちらは試験のあとに載せるのですが。学生に試験の解答を載せるとは、積極的に言っていない。

しかし、載っていることを認識している学生は再試験を軽々とクリアしていますね。それらを探し出して活用するのも学習で、自分で探すことが必要だと考えています。

LT 今後はどのようなことをお考えでしょうか。

久保田先生 本当は、双方向性にWebCTのねらいがあると思います。今の学生はシャイで教室で声を出すことを恥ずかしがりますね。WebCTに学生の声が入れられるといいと思います。たとえば今日の授業はどうだったとか。

LT それでしたら、アンケート機能があります。その他にもメールや電子掲示板などクラス全体で情報共有をしたり1対1のコミュニケーションをしたりと用途に応じてツールが準備されています。設定すればすぐに使えます。

久保田先生 テストも時間を決めて実施できるのでよ。

LT ええ、公開日や公開時間の制限は簡単にできます。試験ということでしたら、不正行為防止にも留意する必要がありますが、ぜひご活用いただければと思います。今日はありがとうございました。

お知らせ

◆ 7月のLTセミナー

7月のLTセミナーでは、WebCT活用の実際に関して話題提供をしていただき、ディスカッションをすることで情報交換をします。ぜひご参加ください。

☆ 「WebCT活用の実際」

—1ステップ上のWebCT活用を目指して—

- ・日時：7月30日(木) 15:00～16:30
- ・会場：宇都宮キャンパス 本部棟1号館402教室

◆ 私情協 教育改革IT戦略大会

私立大学情報教育協会(私情協)主催による「教育改革IT戦略大会」が、9/1～3にアルカディア市ヶ谷にて開催されます。詳細については、私情協のウェブサイト(<http://www.juce.jp>)をご覧ください。

◆ 国際大学戦略セミナー2009 報告

株式会社CSKシステムズ西日本、Blackboard社共催による「国際大学戦略セミナー2009 "Building the 21st Century Campus" ～実質的「学士力修得」を目指して～」が、6/26に開催されました。本学からは、LT開発室室員2名が参加しました。

◆ 全国大学IT活用教育方法研究発表会 報告

私情協主催による「全国大学IT活用教育方法研究発表会」が、7/4に開催されました。本学からは、土屋千尋教授(文学部)と高井久美子助手(理工学部)の2件の発表があり、教職員4名が聴講参加しました。

以上2件の報告の詳細は、LT開発室のウェブサイトをご覧ください。

大学改革の世界的潮流 ～学士課程における学習成果の明確化～



先日、国際大学戦略セミナー2009（表面の「お知らせ」を参照）で、学士力についての講演を聴く機会がありました。学士力とは、中央教育審議会による2008年12月24日の答申「学士課程教育の構築に向けて」において提案された学士課程共通の学習成果に関する参考指針で、それには、1)知識・理解、2)汎用的技能、3)態度・指向性、4)総合的な学習経験と創造的思考力の4分野に渡る13項目が挙げられています。

このような提案がなされるのは、学生の学習成果を明確にしていくという大学教育改革の世界的な流れがあり、我が国の各大学はこれを踏まえた上で、学士課程教育の充実に向けた改革が必要とされているためです。

その背景には、大学を取り巻く環境の変化があります。グローバル化する知識基盤社会・学習社会では、国際的通用性を備えた質の高い教育が必要です。また、我が国について見ると、少子化による人口減少に備えて、教養を備えた専門的な人材を育成し、生産性の向上を図ることが要請されています。さらに、大学のユニバーサル化に伴い、多様な学習者が大学で学ぶようになってきました。

各大学の学士課程を通じて修得すべき学習成果の内容は、その大学の特色やミッションに従って決められるべきものです。答申でもこの趣旨で参考指針

としての学士力を提案しています。果たしてこの学士力が、学習成果の決定を支援するという意味で実効性を持つのかは不明ですが、いずれにせよ、我が国の大学は、学士課程での学習成果を明確にするという世界的な流れの中に在ることは確かです。大学の社会的な役割を考えると、このような潮流に協調していくことは必要でしょうし、何より大学の第一のサービスである教育課程の修了後のビジョンを、そのユーザである学生や社会に明確に示すよう努めることは企業としての大学の責務の1つであると思います。

このような学習成果の明確化のために、その方法論についての議論や実践が始まっています。基本的には、学習成果の明確化に向けて教育プログラムの再検討などを含めたPDCAサイクルを廻すわけですが、それが組織的かつ中長期的な取り組みになることは容易に想像できると思います。今後、各大学では、それぞれの経営方針に従ってこのような大規模な取り組みへ踏み出すかを決定することでしょう。

以上で述べた世界的なトレンドを知ると、担当科目の設計の際には「何を教えたか」よりも「何ができるようになって欲しいか」を意識して、学生へ期待する学習成果を吟味することが大切なのだと思いました。（古川 文人）

Tips

～ WebCTのメールを携帯電話に転送する ～

WebCTで受信したメールを、携帯電話にも転送できるようになりました。転送されたメールは受信のみで、返信はWebCTからしかできませんので、ご注意ください。

WebCTメールを普段使用しているメールアドレスに転送する方法は、帝京大学WebCTサポートサイトをご覧ください。

WebCTサービス停止のお知らせ

WebCTのメンテナンス作業のために、以下の期間中WebCTサービスを停止します。

8月24日(月) 10:00 ～ 8月25日(火) 18:00 (予定)

私情協 大学等電子著作物 権利処理事業のご案内

私情協では、教育研究用に作成した電子著作物を教職員間で相互に利用するために、電子著作物権利処理事業を行っています。

- 本事業により、以下のサービスが受けられます。
- ・システムに登録されている著作物の利用
 - ・企業・団体等の電子著作物の権利処理の仲介
 - ・システムに登録した著作物の利用状況の確認

詳細は、LT開発室のウェブサイトの「電子著作物権利処理事業について」、もしくは私情協のウェブサイト (<http://www.juce.jp/crdb/>) をご覧ください。

システムを利用するにはユーザ登録が必要です。帝京大学内の窓口はLT開発室です。興味をお持ちの方はぜひご登録ください。

編集後記 梅雨も明け蒸し暑い日が多いですね。日頃の運動不足解消のために今年の夏は思いっきり体を動かしたいなと計画中です。プールに海にバーベキューや花火大会、それにテニス！夏はイベント盛りだくさんでなんだかウキウキします。6月より渡瀬ひとみさんを新スタッフとして迎えました。これからもよろしくお願いたします。（及川）



ラーニングテクノロジー開発室連絡先 <http://www.LT-Lab.teikyo-u.ac.jp/>

宇都宮キャンパス本部棟2号館2F 203室 028-627-7243 (直通)

◇一般的なお問合せ：LT-Staff@LT-Lab.teikyo-u.ac.jp

◇技術的なサポート：LT-Support@LT-Lab.teikyo-u.ac.jp

◇室員：熊澤 弘之(室長)、渡辺 博芳、古川 文人、高井 久美子、渡部 里美、及川 芳恵、渡瀬 ひとみ

